

普通第二種免許に係る教習カリキュラムに関する調査研究の概要

◆ 実施内容（令和6年10月～12月に、東京都内2か所、埼玉県内1か所の3教習所で実施）

- 普通第一種免許の教習科目と重複している科目の整理・統合・縮減を行った教習カリキュラムを実施

		学科教習			技能教習			最短教習日数
		第1段階	第2段階	合計	第1段階	第2段階	合計	
現行の教習		7時限	12時限	19時限	8時限	13時限	21時限	6日
実験 教習	実験群A	4時限	11時限	15時限	5時限	11時限	16時限	4日
	実験群B	4時限	11時限	15時限	3時限	9時限	12時限	3日

◆ 実験対象の教習生数 30名（8t限定中型免許、準中型免許、5t限定準中型免許又は普通免許保有者）

現行の普通第二種免許に係る教習を修了した者と同等の運転知識、運転技能を習得できるかを確認するため、実験群A及び実験群Bそれぞれ15名に対して実験教習を実施

◆ 教習習熟度の確認結果

- 技能教習の教習効果の確認（みきわめ）の結果及び全教習修了までにかかった時限数
実験群A、実験群Bともに全員が技能教習の教習効果の確認（みきわめ）は1回で良好な成績となり、設定教習時限数を超過することなく教習を修了した。
- 学科教習の効果測定の結果
3教習所における効果測定の平均点については、実験群Aは89.2点、実験群Bは88.3点であり、同時期における一般教習生の平均点である91.2点と比較して大きな差は見られなかったものの、合格基準である90点に僅かに及ばなかった。
- 学科試験の合格率
実験群A、実験群Bともに令和5年中の運転免許試験の合格率（67.1%）よりも高く、両群ともに合格率は93.8%であった。
- 模擬検定（技能試験）の合格率
実験群Aは83.3%、実験群Bは93.8%であるが、母数が15であること及び通常の検定とは異なる公安委員会の技能試験官が同乗して行われた環境であったことを考慮すると、実験群A、実験群Bともに3教習所における卒業検定の合格率（98.3%）と大きな差は見られなかった。

◆ アンケート結果

教習指導員は、特に実験群Bの第1段階の技能教習及び学科教習、第2段階の技能教習について「時限数を増やすべき」との回答が多く、実験教習生は、技能教習及び学科教習の両群において6割以上が「時限数は適正」と回答した。

結 論

- 学科教習は、効果測定の平均点が学科試験の合格基準である90点に達しておらず教習効果がやや不足しており、教習指導員のアンケート結果においても時限数を増やすべきとの回答が多かったことから、第1段階については今回設定した教習時限から2時限増やすこととし、第1段階6時限、第2段階11時限の合計17時限の学科教習とすることが適当
- 技能教習は、教習指導員のアンケート結果においては教習時限数を増やすべきとの回答が多く見られたが、実験群A、実験群Bともに、全員が技能教習の教習効果の確認（みきわめ）は1回で良好な成績となり、設定教習時限数を超過することなく教習を修了しており十分な教習効果が認められたことから、より教習時限数の少ない実験群Bの第1段階3時限、第2段階9時限の合計12時限の技能教習とすることが適当